

石川啄木 本名 石川 一（はじめ）



1886年（明治19年）2月20日、南岩手郡日戸村（現・岩手県盛岡市）の常光寺で生まれ、翌年、住職である父親の転任により、家族で浜民村（現・盛岡市浜民）の寶徳寺に移り住む。1902年、盛岡中学校を中退して上京し、小日向台町（現・文京区音羽）に下宿。与謝野鉄幹・晶子夫妻から文学の指導を受ける。病を得て故郷へ戻り、1904年、詩集刊行を目的に上京。向ヶ丘弥生町（現・文京区弥生）に居留し、翌年、初の詩集『あこがれ』を刊行。同年、盛岡市に戻り、新婚生活を営みながら、文芸雑誌『小天地』を発行。1906年、浜民尋常高等小学校の代用教員となるが、教師生活を1年間で終え、翌年5月、北海道へ渡る。各地を漂泊ののち、新たな文学活動の展開を願い、1908年4月に上京し、同郷の先輩・金田一京助を頼りに、菊坂町の赤心館、その後、森川町の蓋平館別荘（ともに現・文京区本郷）に下宿。翌年6月、家族を迎えて弓町（現・文京区本郷）の喜之床（現・新井理髪店の地）に移る。一生に二度とは帰って来ないのちの一秒を惜しみ、また、故郷への想いを短歌に表して、1910年12月、第1歌集『一握の砂』が出版された。自由な作風と三行書きの特徴をもつ短歌は、当時の文壇の人々を驚かせた。1912年（明治45年）4月13日、肺結核のため、久堅町（現・文京区小石川）にて26歳2か月の生涯を閉じた。2か月後、第2歌集『悲しき玩具』が刊行された。

啄木学級 文の京 講座 応募方法



応募者1名につき往復はがき1枚が必要です

往復はがき（1枚につき1名まで）に必要な事項（記入例参照）をご記入の上
 でお応募ください（文京区在勤・在学の方はその旨を記載）。

※電話・FAX・E-mail等での応募はできません。

※結果発表は返信はがきの発送をもって代えさせていただきます。

※応募が定員を超える場合は抽選となります。

往復はがき1枚での複数名の応募、記載内容の不備、料金の不足等があった場合は無効となりますのでご注意ください。

応募先 〒020-0871 盛岡市中ノ橋通一丁目1-10
 （公財）盛岡観光コンベンション協会「啄木学級」係

往復はがき記入例

返信用宛名にご自身の住所・氏名の記入をお忘れなく!!

郵便往復はがき

63 日本郵便 NIPPON

⑤郵便番号

⑦氏名

⑥住所

①「啄木学級」応募

②郵便番号・住所

③氏名（ふりがな）

④電話番号

返信

往信

郵便往復はがき

63 日本郵便 NIPPON

020 0871

盛岡市中ノ橋通一丁目1-10

（公財）盛岡観光コンベンション協会「啄木学級」係

※ここには何も書かないでください。

往信

締切日
6/7 (金)
 消印有効

受講料
無料

定員
300名
 (うち文京区在住・在勤・在学者180名)

会場までのアクセス



- 東京メトロ「後楽園」駅 丸ノ内線(4a・5番出口)・南北線(5番出口) 徒歩1分
- 都営地下鉄「春日」駅 三田線・大江戸線(文京シビックセンター連絡口) 徒歩1分
- JR総武線「水道橋」駅(東口) 徒歩9分

友好都市 - 啄木がつなぐ文京区と盛岡市の絆 -

平成31年2月20日、石川啄木生誕の地である盛岡市と終焉の地である文京区は、啄木生誕の日でもある2月20日にちなみ、教育文化、スポーツ、産業等の交流を促進することにより、両都市の住民相互の理解と友情を深め、永続的な友好が図られることを願い、友好都市として提携しました。これまでに「啄木学級文の京講座」をはじめ、「文京博覧会」や「盛岡さんさ踊り」等を通じた交流を続けています。

啄木終焉の地歌碑と顕彰室（文京区）

石川啄木が生涯を閉じた文京区小石川5丁目には、啄木終焉の地を記念する歌碑と顕彰室があります。歌碑には、啄木最後の歌とされる第二詩集「悲しき玩具」冒頭の二首が刻まれているほか、顕彰室には石川啄木記念館（盛岡市）提供の写真や年表、直筆原稿や書簡のレプリカなどが展示されています。

開室時間 9:00～17:00（年末年始、特別開室を除く）
 所在地 東京都文京区小石川5-11-8
 交通 東京メトロ丸ノ内線茗荷谷駅下車 徒歩7分
<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/ato/kensyousitu.html>



石川啄木記念館

貴重な直筆書簡など、300点以上の啄木ゆかりの資料を展示。人間・石川啄木の生涯を肌で感じることができます。



改修工事に伴い休館中

令和7年1月リニューアルオープン（予定）

〒028-4132 岩手県盛岡市浜民字浜民9
 TEL 019-683-2315 FAX 019-683-3119
<https://www.mfca.jp/takuboku/>



もりおか啄木・賢治青春館

1910年（明治43年）に竣工した旧第九十銀行を保存活用して、啄木と宮沢賢治が青春を育んだ盛岡の街と2人の青春時代を紹介しています。

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目1-25
 TEL・FAX 019-604-8900
<https://seishunkan.jp>



啄木新婚の家

石川啄木が堀合節子との新婚生活を始めた家。鉛筆「我が四畳半」に新婚当時の様子が書かれています。

〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目17-18
 TEL 019-624-2193

※各施設の最新の情報はホームページ等でご確認ください。